

映画を通して『知る』多様な世界 ～ダブルマイノリティとして生きる～

日時：2024年1月20日（土）13:30～16:30

場所：南山大学D棟地下1階 DB1

講師：今井ミカ氏

（映画「虹色の朝が来るまで」監督）

演題：映画を通して『知る』多様な世界～ダブルマイノリティとして生きる～では、今井ミカ監督『虹色の朝が来るまで』を上映し、上映後に講演会を開催した。

▼映画『虹色の朝が来るまで』とは



<ストーリー>

ありのままの自分でいたい。ありのまままで生きたい――

群馬の手話サークルで知り合ったろう者の華とあゆみ。華は初めて同性に惹かれ戸惑うも、あゆみと交際することになる。後日、華は実家へ帰り、両親にあゆみとの交際について話すと、いつでも味方だった母親から拒絶されてしまう。母親の態度に華はショックを受けるが、あゆみとの関係を断ち切ることがどうしてもできない。苦しんでいる華を見かねたあゆみは、東京で開かれる“ろう者のLGBTQイベント”に華を誘う。そこには、悩みを抱えつつも前向きに生きる、ろう者のLGBTQの人たちが集っていた。それぞれが今まで乗り越えて来た苦難を聞くうちに、初めは緊張していたふたりも、次第に心を開いていく…

©2018 JSLTime <配給>フィルモット<提供>シユアール<企画・制作>JSLTime



2023年度公開講演会

▼講演は以下の流れで開催された

1. 自己紹介

今井 ミカのプロフィールの紹介

映画監督。第一言語が日本手話のろう者。大学卒業後、香港で2年間手話言語学を学ぶ。2018年映画『虹色の朝が来るまで』を制作、翌年劇場公開。2021年制作の『ジンジャーミルク』で、映文連アワード優秀賞、うえだ城下町映画祭大賞、TAMA NEW WAVE特別賞を受賞、イギリスFragmentsFestival2023最優秀賞受賞。CM制作や劇場映画など手話・ろう者監修においても活躍中。日本科学未来館をはじめとした文化施設の紹介など、手話の映像制作に取り組んでいる。

2. 今井ミカが代表を務める株式会社サンドプラスの紹介

○社名の由来 サンドプラス (SANDO+) とは

Sはsign languageのS

ANDはろう者の文化と聴者の文化を尊重し合う社会を目指し

DOは創造しながら行動する

+は新たな可能性を見出し、プラスになる。

○企業理念

ろう者と聴者の文化を尊重し合い

手話とともに、新たな可能性を創造する社会へ

○事業

映画・映像の企画や制作、俳優のキャスティング、講演/講座の開催など多岐にわたる。これまでの活動概要等については、参考資料欄を参照のこと。

3. ろう者と手話について

ろう者とは日本語と異なる言語の手話を第一言語とする人、日本語と異なる言語の手話について、文例を交え日本語と文法が異なる点を説明。また、言語が異なると文化も違う点を、聴者とろう者を比較し紹介した。

4. LGBTQについて

いろいろな性のカチがあることや、自身のLGBTQについて説明。

5. ダブルマイノリティ

映画『虹色の朝が来るまで』のテーマでもある、ダブルマイノリティについての具体的な説明をし、なぜこの映画を制作するに至ったのか、その過程を紹介した。

6. 映画『虹色の朝が来るまで』の制作のきっかけ

制作のきっかけとなるエピソードや制作に対する思いを語った。制作後の上映で反響があり、さらに多くの場所で上映をしたいという思いが募り、映画祭・一般公開・国内外で数多く上映される映画となった。

7. 映画『虹色の朝が来るまで』のエピソードと裏話

制作する上で大切にしたい点、背景に潜むもの、言語や文化的要素の重要性、ろう者に楽しんでもらうだけではなく聴者にも知ってもらいたいエピソードを紹介した。

8. おわりに ～“違い”を尊重し合える社会へ～

映画を通じて、知って、感じたことを身近な人と対話し、一人ひとりが互いを尊重し合えるようになることが社会を変えるきっかけになると語った。

参考資料：株式会社サンドプラスの事業

▼Movie映画・映像の企画や制作

映画監督 今井ミカが制作する手話を付加した映像、手話を取り入れた案内、紹介、CM、映画など、映像の企画制作

●これまでの映画作品

2014年短編映画『あだなゲーム』第2回アイルランド国際映画祭2014短編映画部門最優秀賞、2018年長編『虹色の朝が来るまで』は、第27回レインボー・リール東京～東京国際レズビアン&ゲイ映画祭～上映をきっかけに2020年劇場一般上映し話題となる。第35回高崎映画祭 邦画セレクション上映。2021年長編映画『ジンジャーミルク』第3回東京国際ろう映画祭上映、映文連アワード2022 パーソナル・コミュニケーション部門優秀賞、うえだ城下町映画祭の第20回自主制作映画コンテスト大賞、第23回TAMA NEW WAVE コンペティション特別賞など。



2014年『あだなゲーム』
14分



2018年『虹色の朝が来るまで』
63分



2021年『ジンジャーミルク』
60分

●主な手話映像制作

日本では文化施設を中心に、アートや文化財を通して、誰もが新しい価値や可能性を見出せる未来をめざし、施設紹介や展示に手話を付加する映像制作が増えている。制作過程において、企画の段階より当事者と協働し一緒に考えながら制作を行う動きが進んでいる。

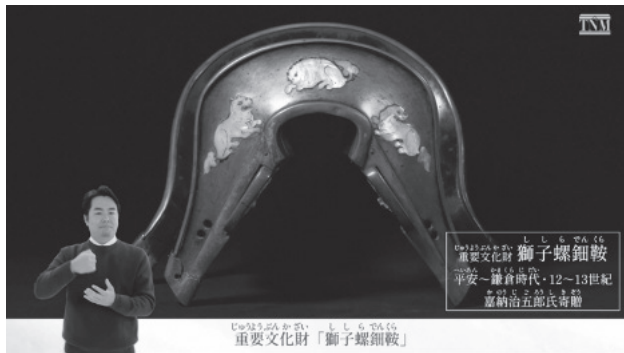
2022年日本科学未来館様
「日本科学未来館のご案内」



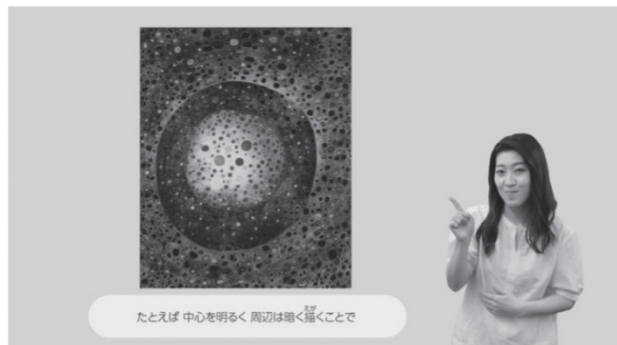
2023年日本科学未来館様
「ノーベルQ-ノーベル賞受賞者たちからの問い」



2024年東京国立博物館様
「漆の飾り 螺鈿」



2024年国立アトリーサーチセンター様
「手話で楽しむ美術コレクション」



▼Actor俳優/キャスティング

ろう者俳優のマネジメント、ろう者や手話ができる聴者のキャスティング

ろう者のロールモデルが数少ないことから、ロールモデルを輩出し手話やろう者の認知を向上するため、演技力がある俳優を起用した芸能プロダクション事業を開設。

・今井彰人

<https://akito-imai.sando-plus.com/>

・レオ

<https://leo.sando-plus.com/>

▼Lecture講演/講座

当事者による、手話やろう文化、映画制作、セクシュアルマイノリティなどの講演派遣